

仙台市市民協働事業提案制度  
令和4年度実施事業報告会・令和5年度実施事業中間報告会

# 障害者のためのお金の勉強会

令和5年9月12日

特定非営利活動法人障がい者の暮らしとお金の相談室

# 1 課題（※事業計画書時点）

## （1）現状・背景

障害者の経済面に関する相談先がなく、  
障害者の経済面に関する課題はほぼ手つかずの状況にある。

① 仙台市が実施した障害者の家族へのアンケート調査（平成22年12月）

- **92.5%** の家族が『**お金の管理**』は「何らかの介助が必要」と回答している。
- 12年後の現状も、ほとんど変わりが無い。

② 「福祉団体、家族会などの「親なきあと」等勉強会講師」（令和3年度）の質問

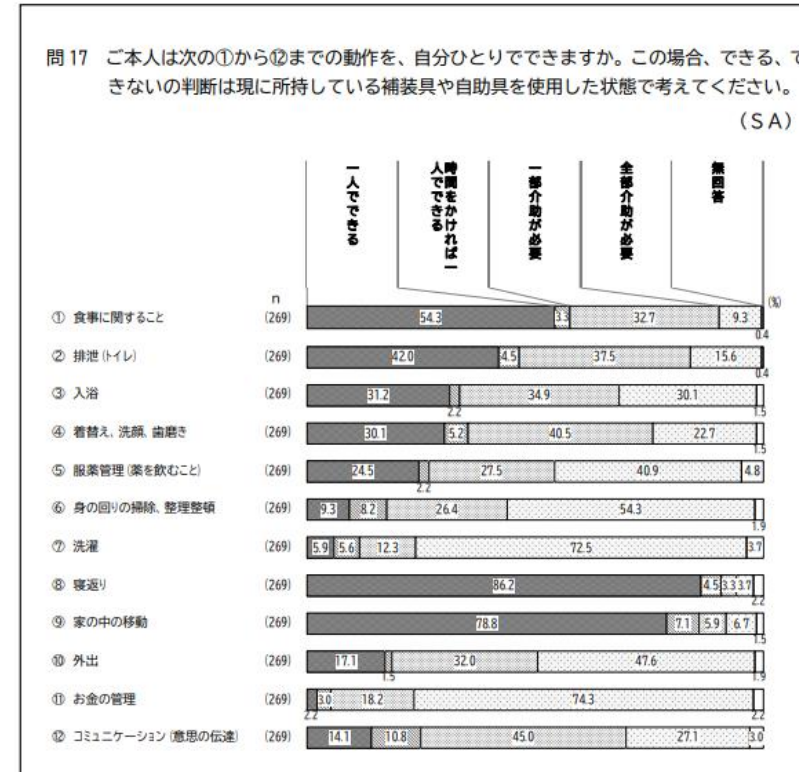
- 109件の質問のうち、障害のある子の生活費に関する質問が41件（37.6%）だった。
- 発達障害者の支援団体は以前当事者向けお金の勉強会を実施したが、**福祉（支援）**

**の視点が低く** 効果が薄かった。

# 1 課題（※事業計画書時点）

仙台市が実施した  
障害者の家族へのアンケート調査  
(平成22年12月)

92.5%の家族が『お金の管理』は「何らかの介助が必要」と回答している。



①から⑫のそれぞれ日常生活動作における介助の有無については、「一人できる」と「時間をかければ一人できる」を合わせた《一人できる》人が多い項目は、『寝返り』(90.7%)、『家の中の移動』(85.9%)、『食事に関すること』(57.6%)、『排泄(トイレ)』(46.5%)となっている。

一方、「一部介助が必要」と「全部介助が必要」を合わせた《何らかの介助が必要》な人が最も多い項目は、『お金の管理』で92.5%を占めている。以下『洗濯』(84.8%)、『身の回りの掃除、整理整頓』(80.7%)、『外出』(79.6%)、『コミュニケーション(意思の伝達)』(72.1%)、『服薬管理(薬を飲むこと)』(68.4%)となっている。

# 1 課題（※事業計画書時点）

## （2）問題点

### 障害者の経済面における生活不安

障害者本人のお金の使い方について、

- ① 「**衝動買い**をしてしまう」
- ② 「**見通しが立てづらく** お金を使うことに**恐怖心**を持つ」

などの問題

# 1 課題（※事業計画書時点）

## （3）解決すべき課題

### 障害者本人の金融リテラシー

障害者本人の**金融リテラシーが低く**、障害者が**自分の価値観に合ったお金の使い方**ができていない。

## 2 事業の目的・目標（※事業計画書時点）

- 障害者本人の金融リテラシーが向上し、
- 障害者本人が人生の価値観に合ったお金の使い方ができるようになる。



障害者本人のお金の使い方が改善されれば、

- ① 本人の生活困窮を防ぎ、生活保護の抑制に貢献できる。
- ② 本人の豊かな生活につながる。
- ③ 家族の「親なきあと」への不安が軽減される。
- ④ 地域力や地域経済力の向上につながる。

## 2 事業の目的・目標（※事業計画書時点）

<令和5年度事業の効果と目標>

### ○コンテンツ

- 障害特性に合ったコンテンツの作成

### ○参加者数

- 障害者本人は課題意識の低い人が多い。
- 支援者や家族を通して本事業への参加を促進する。
- 各回の定員を20名として、各回の参加者数は定員の75%を目標とする。

### ○参加者に対する成果

- 自分の好きな活動を知る。
- 生活に必要なお金の使い方を知る。
- ニーズとウォンツを整理する。
- 自分の好きな活動に優先順位をつける。
- 生活に必要なことと好きな活動の優先順位が高い順に、お金を使えるようになることを目指す。
- ライフプランを通して、支援のもとに正しい貯蓄と投資を行えることを目指す。

### ○事業としての成果

- 参加者の金融リテラシーの変容の分析

### 3 事業の具体的な内容

「障害者のお金の学習会」

会場 仙台市生涯学習センター

	知的障害者の学習会 申込数 12名	精神障害者の学習会 申込数 24名	発達障害者の学習会 申込数 30名
1. 好きなこと	7月1日（土）10:00～12:00 ●参加者数 10名	6月16日（金）14:00～16:00 ●参加者数 18名	7月1日（土）15:30～17:30 ●参加者数 21名
2. お金の基本	7月22日（土）10:00～12:00 ●参加者数 8名	8月18日（金）14:00～16:00 ●参加者数 17名	7月22日（土）15:30～17:30 ●参加者数 19名
3. 病気になった時に必要なお金	8月5日（土）10:00～12:00 ●参加者数 8名	9月1日（金）14:00～16:00	8月5日（土）15:30～17:30 ●参加者数 16名
4. 将来のお金	9月23日（土）10:00～12:00	9月22日（金）14:00～16:00	9月23日（土）15:30～17:30
5. 契約とトラブル	9月30日（土）10:00～12:00	10月6日（金）14:00～16:00	9月30日（土）15:30～17:30
6. ライフプラン	10月7日（土）10:00～12:00	10月13日（金）14:00～16:00	10月7日（土）15:30～17:30



## 3 事業の具体的な内容

### <事業実施のポイント>

#### ① シリーズ化

市外では、ゆうちょ財団などで単発の知的障害者向けの勉強会などはある。本事業では理解の定着を目指して、シリーズ化することとした。

#### ② 障害に配慮した日程設定

- 知的障害

就労中または就労移行支援事業所等の利用者であり、かつ日曜日は余暇活動を行っていることを想定し、土曜日の午前中とした。

- 精神障害

精神科ソーシャルワーカーや精神保健福祉分野の支援者と協議し、最も参加しやすい金曜日午後（特に夕方終わりがポイント）とした。

- 発達障害

ここねっとなど、地域活動支援センターと協議し、土曜日の夕方近い時間帯とした。

## 3 事業の具体的な内容

### <事業実施のポイント>

#### ③ グループディスカッション

理解の定着と実践を目指すことから、講師からの説明と参加者同士のグループディスカッションを組み合わせた。

#### ④ ファシリテーターの配置

メイン講師のほか、ファイナンシャル・プランナーを配置した。ファシリテーターは、ファイナンシャル・プランナー（CFP・AFP等）や障害者福祉の支援者を配置した。ファシリテーターは、グループ進行のほか、講師の全体説明を踏まえた補足説明を行った。

## 4 仙台市の協働課や各連携先との連携について

### <仙台市の協働課>

#### ① 健康福祉局障害企画課

- ◆ 就労移行支援事業所や相談支援事業所等への周知。
- ◆ 就労系の事業所に対する経済面の支援の啓発。
- ◆ 余暇（障害者スポーツ、文化芸術活動・レクリエーションなど）とライフプラン

#### ② 仙台市消費生活センター

- ◆ 契約トラブル、詐欺被害などの予防
- ◆ 消費生活に関する相談の啓発

#### ③ 教育局生涯学習支援センター

- ◆ 会場（仙台市生涯学習センター）の協力など

## 4 仙台市の協働課や各連携先との連携について

### <障害者福祉団体・医療機関等>

#### ① NPO法人自閉症ピアリンクセンターここねっと

- 利用者・相談者への周知。
- 学習会内容の助言、学習会当日のサポートなど。

#### ② 社会福祉法人みんなの輪

- 利用者・相談者への周知。
- 学習会運営の助言など。

#### ③ 宮城県手をつなぐ育成会

- 会員等への周知。
- 知的障害のある方に対する資料作成の助言など。

#### ④ 医療法人社団原クリニック

- 利用者・患者への周知。
- 精神障害のある参加者への関わり方の助言など。

## 5 検討会附帯意見への取り組み

### 付帯意見1 参加者の募集

- ① 重複障害のある方がどのコースに行けば良いか迷わないような案内。
- ② 就労移行支援事業所や就労支援事業所に通っておらず、勉強会について知る機会の少ない方々にも情報がいきわたるような周知・広報の工夫。



### 参加者の募集の取り組み

- ① チラシのタイトルに障害種別を明記したほか、**主な事業所へ訪問**し、支援者に障がい特性をヒアリングし、どのコースが望ましいかを案内した。
- ② 相談支援事業所等へ周知した。また、**親なきあと生活設計事業の相談者へ案内**した。

## 5 検討会附帯意見への取り組み

### 付帯意見2

**行動援護・移動支援の福祉サービスと連携するなど、勉強会の参加者が来場しやすい仕組みについての検討。**



### 行動援護・移動支援の福祉サービスとの連携

現在の申込者は、一般就労のほか、就労移行支援事業、就労継続支援A型の利用者、社会的ひきこもり状態に方が多数となっている。日常的に外出し、自分で買い物をするが、お金の使い方に課題を持っている方が申し込んでいる。自立して外出が難しく（行動援護・障害支援区分3以上）、日常的に自身でお金を使っていない方は、申し込んでいない。今後に向けて行動援護・移動支援のサービス事業者と協議したい。

## 5 検討会附帯意見への取り組み

### 付帯意見3

- ① 勉強会を休まれてしまった方でも後日学習できるように、例えば勉強会の様子をビデオ等で撮影・記録して提供するなどの工夫の検討。
- ② お金の使い方に関連して、成年後見制度など知っていただきたい支援制度や情報についてもプログラムに組み込むよう検討。



### ① 後日学習の取り組み

障害特性によって理解力に差があるため、理解の定着のほか、誤解を防ぐためにグループディスカッションを取り入れている。撮影・記録したビデオ等の提供を行うあたっては、誤解を防ぐためのコンテンツ作成が必要であり、現行の人員では難しい。今後の課題としたい。

## 5 検討会附帯意見への取り組み

### 付帯意見3

- ① 勉強会を休まれてしまった方でも後日学習できるように、例えば勉強会の様子をビデオ等で撮影・記録して提供するなどの工夫の検討。
- ② お金の使い方に関連して、成年後見制度など知っていただきたい支援制度や情報についてもプログラムに組み込むよう検討。



### ② 支援制度の取り組み

成年後見制度や日常生活自立支援事業などの支援制度は、親なきあと生活設計事業で家族向けに行っている。本人向けには、まずはお金の価値ある使い方についてを学ぶ内容としている。最後のライフプランの回で、本人が認知症になった時に備える場合で紹介する予定。



## 5 検討会附帯意見への取り組み

### 付帯意見4

事業の実施にあたっては、主に障害者家族を対象とする本市の「親なきあと生活設計事業」と連携を図りながら進めること。



### 「親なきあと生活設計事業」との連携

「親なきあと生活設計事業」の相談者（家族）に対して、本事業を案内したところ、本人9名の申込みを得た。うち、3名がひきこもり者だった。SWによるひきこもり支援に本学習会が活用しやすいなど、手ごたえを感じている。なお、逆に、本学習会参加者の家族が「親なきあと生活設計事業」を利用した事例が1件あった。今後、事業間の連携を深めたい。

## 5 検討会付帯意見への取り組み

### 付帯意見 5

事業のターゲットとなる方々の評価を把握するために、協働想定課と協議した上で、可能な範囲でアンケート等の実施を検討すること。



### アンケートの実施

■ アンケート評価 (3段階評価 大いに学びになった：2、学びになった：1、学びにならなかった：0)

知的 1.6      精神 1.5      発達 1.6

### ■ 行動変容

- 他者の意見が参考になり、キャッシュレスから現金に。
- 個人ワークから趣味の回数の抑制。
- グループディスカッションで将来の不安を感じ、個別相談へ。

## 6 今後について

### 現段階での課題

- 参加者の継続的な学び 「学習会が浪費の抑止力になる」 ※参加者より
- 知的障害者の参加申込み数（定員の半数）
- 発達障害者の参加人数（定員以上）



### 今後について

- 下半期（2クール）の内容の見直し
  - ➡ **ライフプランゲームの導入**
- 実施回の検討

## 6 今後について

### 現段階での課題

- 障害者の参加者の理解度のバラつき



### 今後について

- 知的障害者福祉団体の支援者の運営協力
- 個別相談（令和6年度）

## 6 今後について

### 現段階での課題

- 事業の周知  
(移行支援事業所などの関心の引き出し)
- 課題意識の低い障害者の掘り起こし



### 今後について

- 就労移行支援事業所等との意見交換会 (令和6年度)
- 相談支援事業所等との意見交換会 (令和6年度)

## 6 今後について

### 現段階での課題

- 親なきあと生活設計事業との連携



### 今後について

- 親なきあと生活設計事業学習会・相談会での周知
- お金の学習会の家族向け体験会
- ひきこもり者の参加に向けた検討（令和6年度）

**本日は、ありがとうございました。**

NPO法人障がい者の暮らしとお金の相談室  
「親なきあと」相談室 仙台・宮城事務局

担当 齋藤・佐々木

TEL 022-748-7358

E-mail lamftd1203@gmail.com